第４期旭区地域福祉保健計画について

１　第１回策定検討部会　報告

地域で実践的に活動されている方々を中心に策定検討部会の委員に就任していただき、第３期旭区地域福祉保健計画の振返りと、現在の活動とともに、第４期計画の策定にあたって、これからの旭区の福祉保健に関する検討を開始していただきました。

今後、関係団体ヒアリング等も踏まえ、全６回の検討部会で議論を深めてまいります。

主な意見	視点
・「地域福祉保健計画」自体が地域に理解される必要がある。 ・自分たちの計画であることを地域にもっと言っていく必要がある。 ・１年で交代する地域の役員に浸透する必要がある。 ・障害がある人にも理解してもらえる工夫が必要である。 ・「福祉保健」であっても、“我が事”として自治会町内会にも参加してもらう必要がある。	**誰にとっても“我が事”と思える**
・担い手を若い人と決めつけず、高齢者が高齢者の支え手として活躍することもある。 ・今、活動している人以外の担い手を増やす必要がある。 ・喫茶サロンの活動に障害者が参加することで、来られた方に感謝される。 ・民生委員・児童委員の見守り活動にも限界がある。	**誰もが「支え手」「受け手」となる**
・自治会町内会単位より身近な場にサロンがあると良い。 ・小規模な場所を多く確保して、集まりの場を広げる必要がある。 ・使わなくなった部屋、車庫等、地域資源となりうる場所が様々ある。	**“小さいエリア”での活動を増やす**
・地域課題の受け止め先が「地区別計画推進組織」になっている。 ・地域課題は縦割りでなく、横断的に考える必要がある。 ・コミュニティバスは地域福祉の問題である。 ・近所で認知し合える仕組が必要である。 ・災害時を想定すると、近隣とのコミュニケーションが少ない人と地域をつなげたい。 ・高齢者の中には地域に出ていかれない人が増えている。 ・話し相手がいることは、癒しになる。 ・一人暮らしの方は話好きで、何かのきっかけで交流し始めることは多い。	**「取り組む視点」はふだんの暮らしの中にある**

【裏面あり】

2　今後のスケジュール

年	月	会議名等	内　　容
令和元年度	8～10 月	関係団体ヒアリング	8 月　　各団体への依頼 9～10 月　ヒアリング実施、ヒアリングまとめ
	9 月 18 日	きらっとあさひ地区連絡会	・3 期計画の振返り ・4 期計画策定に向けた進め方 等
	10 月 28 日	第 2 回策定検討部会	・区全域計画の骨子案の方向性 ・区全域計画の内容、具体的な取組 等
	11 月 22 日	第 3 回策定検討部会	・区全域計画の骨子、内容、具体的な取組 等
	1 月 29 日	第 2 回地域福祉保健推進会議	・第 4 期計画区全域計画の素案 ・第 4 期地区別計画策定について 等
	3 月	地区別計画策定依頼	
	3 月下旬	第 4 回策定検討部会	・区全域計画素案のまとめ ・地区別計画策定について 等
令和2年度	5 月下旬～ 6 月中旬	第 5 ・ 6 回 策定検討部会	・旭区地域福祉保健計画素案のまとめ
	7 月下旬	第 3 回地域福祉保健推進会議	・旭区地域福祉保健計画素案について ・パブリックコメントの実施について 等
	10 月	パブリックコメント実施	
	1 月	第 4 回地域福祉保健推進会議	・推進会議として旭区地域福祉保健計画の確定
	2 月	計画確定	

<参考>第 4 期地域福祉保健計画で大切にしたい事項　～地域福祉保健推進会議から～

○ わかりやすい計画

誰もが親しみをもって理解できるわかりやすい計画とする。／「目標」と「具体的な　取組」相互の関連等をわかりやすく表現する。／「区全域計画」と「地区別計画」の関連をより明確にする。

○ 認知度を高めて計画を推進

区民の約 8 割の人が「計画を知らない」状況を踏まえて、認知度向上を図る。／地域の方々が策定し、多様な主体が協働して進める計画であることを理解してもらう取り組みを行う。／計画を進めることが、地域活動の活性化や地域人材の発掘・育成等につながることを普及啓発する。

○ これまでの取組成果の上に、さらに蓄積

3 期にわたり積み重ねてきた取組を大切にし、さらに係わりやすい工夫を加える等で継続を図るとともに、新たな時代の要求に応える取組を徐々に加えていく。

○ 「見守り・支え合い」などの取組を充実

「社会的孤立」を始めとする生活課題・地域課題に対して、「見守り・支え合う」関係を大切にする。／地域の多様な主体が参画し、様々な社会資源がつながることによる身近で日常的な仕組みを盛り込む。

○ 対象を限らない視点

“全ての人に持続可能な”という「SDG s 」の理念を踏まえ、世代やハンディキャップの違いなどを問わず「誰もが」同じ地域の仲間として受け入れられ、認め合うことを基本とする。／特定の方や生活課題・地域課題に特化することなく、誰もが対象となる内容で構成する。／誰もが「支え手」であり「受け手」でもあることを前提とした取組を計画する。